

人間を救うのは、人間だ。

「特集」

災害に備える!

いつどこで起こるかわからない災害。

そのとき被害を最小限に減らすためには、

一人ひとりの「備え」が必要です。



災害救護訓練は、明日への**備え**です。

いっどこで起こるかわからない災害に対して、大切なことは日々の「備え」と、災害に見舞われてしまったときの「対処法」です。
 地域防災の日に合わせて、県内各地域の自主防災組織が中心となって、毎年訓練などが行われています。また、日本赤十字社静岡県支部でも発災時にいち早く被災地に向かい救護活動が行えるよう、日々救護体制の充実に努めています。その一つが「災害救護訓練」です。
 今回は、災害に備えるための日本赤十字社静岡県支部の取り組み、そして、あなた自身が暮らしの中でできる取り組みをご紹介します。

12月の第一日曜日は
静岡県の
「地域防災の日」



災害救護訓練レポート

災害を想定し連携と協力につなぐ減災。

想定 遠州灘を震源とするマグニチュード8.0の地震が発生し、浜松市内では震度6強を観測。この地震による建物倒壊や津波被害などにより、多くの死傷者が出ている。

9月16日、浜松赤十字病院にて、「日本赤十字社静岡県支部・浜松赤十字病院合同災害救護訓練」を実施しました。訓練では同院職員が、県内各赤十字病院救護班の協力を得て、地元の自治体、医師会などの関係機関と連携して、多数の傷病者の受け入れ態勢などを確認。病院前では、搬送された傷病者の治療の優先順位を決める「トリアージ」を行い、症状別に医師や看護師らが治療を行いました。また、赤十字奉仕団の協力を得て、通信訓練や炊き出し訓練も実施。災害が起きた時に、迅速に救護活動が行えるよう、ボランティアや職員約380人が一丸となって取り組みました。



2019.09.16 HAMAMATSU

dERU



↑ドラッシュテント

dERUとは、国内型緊急対応ユニット (domestic Emergency Response Unit) の略称です。大規模災害の発生時に、一刻も早く被災地で診療などを開始することを目的として、ドラッシュテントをはじめとする仮設診療所の機材とそれを運ぶトラック、訓練された要員を総称してdERUと呼んでいます。日本赤十字社全体で20ユニット、そのうち静岡県支部には1ユニットを配備しています(令和元年8月末現在)。仮設診療所は、14人の要員が約1時間で立ち上げ、1日150人ほどの軽症・中等症などの傷病者を3日間治療できます。その後は、医療機材の補給により治療を継続することができます。

設置運営訓練レポート

一刻も早く診療を開始するための移動可能な仮設診療所。

dERUは、野外で診療所を開設するために必要な医療機材などを専用のご台車で保管し、いざという時に直ちに対応できるように管理しています。訓練では、ドラッシュテントを立ち上げ、仮設診療所を開設し、多数の傷病者の受け入れを行いました。

※ドラッシュテントは、断熱効果や耐風性に優れた大型のテント。複数のドラッシュテントを連結して使用することもできます。



装 備

- 仮設診療所設備
- 輸送用トラック
- ・ドラッシュテント
- ・医薬品
- ・医療機材(診察台、担架など)
- ・発電機
- ・パソコン
- ・通信機器など

要 員

原則として、1救護班は6人(医師1人、看護師長1人、看護師2人、主事2人)で編成していますが、dERU要員は右記の14人を1班として編成されます。

・医師	2人	} 医療要員
・看護師長	2人	
・看護師	4人	
・助産師	1人	
・薬剤師	1人	
・主事	4人	
計	14人	— 管理要員

機 能

- 仮設診療所(被災地での救護所)
- 巡回診療などにおける活動拠点
- 後方搬送における傷病者の一時収容場所

その1 地域の防災訓練に参加してみよう!

防災訓練を行うことで、災害の被害を減らすことができます。地域で助け合う「共助」の大切さを学んでみましょう。



その2 ハザードマップ(防災マップ)を見てみよう!

ハザードマップは、地震や津波、土砂災害などの自然災害による被害を予測し、その被害の範囲や程度、さらに避難経路や避難場所などの情報を表した地図で、各自治体などが作成し公開しています。まずは、あなたの身近な場所がどのような地域であるかを知ること。そして、ご家族や身近な方と避難経路や避難場所について話し合ってみましょう。



その3 非常持ち出し品をローリングストックで備蓄してみよう!

日頃からできる備えとして、非常持ち出し品の準備をしましょう。日用品は1週間分を買い置きし、使用した分だけ買い足すことで、常に一定量の備えができる備蓄法「ローリングストック」が推奨されています。普段使いしながら、補充することで賞味期限切れを防ぐ効果があります。



※大規模災害時には、1週間分の備蓄が望ましいと言われています。

令和元年台風第19号における対応

10月12日に伊豆半島に上陸した、令和元年台風第19号により被災された皆さまに、心よりお見舞い申し上げます。日本赤十字社静岡県支部では、直ちに県内の情報収集にあたり、各市町村を通じて被災された皆さまに救援品の配付を行うとともに、義援金の受付を開始しました。また、被害が大きかった隣接県である長野県に、支援要員などを派遣しました。

※災害救護活動の詳細は、当支部ホームページをご覧ください。



あなたができる
備え



災害への備えを学ぶ「防災教育」を実施！

青少年赤十字加盟校の三島市立山田中学校では、8月31日、全校生徒約270人を対象に「命を考える日」と題した防災教育を実施しました。これは、防災の日に合わせて、学校全体で防災意識を高めるとともに、自身や仲間
の命を尊重する心を育むことを目的としています。1年生は減災セミナーと赤十字BLS*入門講座、2年生は包
装食袋を使用した炊き出し体験、3年生は災害時に、コミュニケーションで助け合う環境をつくることの大切さ
を学ぶワークショップを実施。指導は、三島市赤十字奉仕団員と日本赤十字社静岡県支部の職員などが行い
ました。炊き出しを体験した生徒は、「思っていたよりも簡単に、おいしくできた。家でもやってみて、もしもの時
に備えたい」と語り、学校全体で防災意識を高め合う機会となりました。

※BLSとは、一次救命処置の略称で、心肺蘇生(胸骨圧迫と人工呼吸)やAED(自動体外式除細動器)を用いた除細動など心臓や呼吸が停止した傷病者を救命するために行う緊急処置のこと。



▲減災セミナーでハンカチを使ったきずの手当を学ぶ1年生



▲防災コミュニケーションワークショップに取り組む3年生



◀地域赤十字奉仕団員から、包装食袋を使ったカレー作りを学ぶ2年生

PRESENT!

「ハートラちゃん」メモ帳&ボールペンを30名様にプレゼント!

以下を明記のうえ、郵送・FAX・メールでご応募ください。

①お名前 ②郵便番号・ご住所 ③年齢 ④赤十字しずおかVol.124のご意見・ご感想

※回答でお読みになった方には、本号を郵送します。ご希望の方は①②を明記の上、「Vol.124希望」とお書きください。
なお、プレゼントのご応募と同時に申し込みいただく場合は、①～④を明記の上、応募締切日必着をお願いします。

応募先

郵 送：〒420-0853 静岡市葵区追手町44-17
日本赤十字社静岡県支部 組織振興課
FAX：054-254-5830 メール：koho@shizuoka.jrc.or.jp

応募締切

2020年2月28日(金)必着
当選者の発表は、商品の発送をもって代えさせていただきます。



※ボールペンの色は選べません。

※収集した個人情報につきましては、個人情報保護法及び日本赤十字社の保有する個人情報保護規程に則り取り扱います。



日本赤十字社

静岡県支部

〒420-0853 静岡市葵区追手町44-17
TEL 054-252-8131 <http://www.shizuoka.jrc.or.jp>



この印刷物は、みなさまからいただいた資金で作っています。